

昭和医科大学烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 真 田 建 史

〔編集責任者〕 広報委員長 真田 建史

〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 2 2 7 号

[2 0 2 6 年 7 月 1 日]

令和 8 年度 春季 公開講座 報告

精神科 准教授 常岡 俊昭

5月21日 烏山病院にて公開講座を行いました。今回は退院後の居場所を見つける場になればと、烏山病院を退院した患者さん自身や、退院した患者さんが繋がってくれている施設、新しく当院が連携させてもらえたらと思う、全14名にそれぞれの居場所の魅力を話してもらいました。一人一人が話し終えた後に、オンラインで「見学に行きたいと思った」「話が魅力的だった」など質問をさせて頂き、それぞれの質問で最も多く票をとった方にトロフィーを渡させて頂きました。それぞれが貴重なお話をしていただいた中で、それに優劣をつけるのか、というご批判も頂きましたが、聞いている人たちも少しでも一緒になって参加してもらって自分の好きな施設や仲間を応援してもらえて一体感を持ってもらえたらとの企画でした。

当日は対面で92名、オンラインで275名にご参加頂きました。また終了後のアンケートも165名の方からご意見を頂くことができました。皆さんからいただいた意見を基にまた楽しみながら、必要な情報が必要な人の下に届くように、それが広がって社会が依存症者、精神疾患患者が生きやすく変化していく一助になるような企画を考えていきたいと思っています。会の詳細は下記にもアップされていますのでご参照ください。

<https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00008890.html>

最後に今回ご講演頂いた「かみや様 (AA)」「めいちゃん様 (NA)」「たき様 (GA)」「後藤早苗様 (断酒会)」「鳥居健二様 (RD デイケアセンター)」「中村梨絵様 (REL 溝の口)」「市川元太様 (BASE)」「近藤京子様 (オンブレジャパン)」「富嶋亜美様 (すとーりー)」「坂本拓様・小林鮎奈様 (精神疾患の親をもつ子どもの会こどもびあ)」「菊地尚規様 (渋谷ダルク)」「八木真介様 (東京グレイスロード)」「こういち様 (カハナ)」に感謝します。また講演を聞いて頂き投票して拍手してくれて一緒に参加して暖かい時間を作ってくくださった皆様、ありがとうございました。

ぜひ興味をもった団体をネットで調べて行ってみてください！



アメリカ精神医学会発表

精神科 医師 山田 真理

このたび、日本精神神経学会の国際派遣員として、米国サンフランシスコで開催された American Psychiatric Association (APA) 年次総会に参加する機会をいただきました。今年度の APA では、精神科専門職の不足が課題となる中で、精神科医療を支える人材をどのように広げ、育てていくかが大きなテーマとなっていました。

米国では、地域の支援サービスやピアサポートなど、さまざまな資源が整備されている一方で、各資源が独立しており、患者さんをどのように必要な支援へつないでいくかという課題も語られていました。“Warm handoff” と呼ばれる、単なる紹介にとどまらない丁寧な橋渡しの重要性を、改めて考える機会となりました。

その中で、日本の依存症治療では医療にまずつながる患者さんが多いという特徴を活かし、当院では医療が中心となって回復の場への橋渡しを行っていることとお話ししました。東京という立地を活かして、入院中から 23 時 59 分の帰院を可能にし、多くの自助グループにつながる体制を整えてきたこと、病棟の患者さんがピアとして新たな患者さんを支えること、回復施設の方々に頻繁に病棟へ来ていただいていることも、当院ならではの特徴です。こうした仕組みは、退院後も患者さんがつながり続けら

れる支えになるだけでなく、私たち医療者も助けられ、学ばせてもらえる機会になっていると感じています。

医療ができることは医療が担い、当事者だからこそ届けられる力は当事者の方々をお願いしながら、協力して回復を支えていく。その一歩を支えるために、看護師さんをはじめとするスタッフが日々送り出し、帰ってきた患者さんの話を聞いていること。その積み重ねは、まさに当院ならではの warm handoff であり、依存症治療における大切な実践の一例なのだと感じました。

今回の APA 参加は、海外の実践を学ぶ機会であると同時に、烏山病院で日々行われている実践を外から見つめ直す機会にもなりました。患者さんが仲間と出会い、つながりの中で変化していく姿を間近で見られるこの体制があったからこそ、私自身も「回復とは何か」を学ばせてもらい、依存症治療の魅力に出会うことができたのだと思います。今後もこの強みを大切にしながら、当院における治療のさらなる充実につなげていきたいと思っています。



2026年6月に診療報酬改定がございました。様々な改定項目がある中で、毎月の入院費に関わるものが「食事代」の価格改定です。これは、令和7年4月以降も食材料費が上昇していることを踏まえ改定されたもので、どの医療機関においても2026年6月より改定後の食事代になります。

一般所得者の場合は、2026年5月までは1食あたり510円でしたが、2026年6月からは1食あたり円になり、40円コストアップしました。住民税非課税世帯の場合は、2026年5月までは1食あたり240円でしたが、2026年6月からは1食あたり270円になり、30円コストアップしました。各区分の改定前後の比較表を以下にまとめました。

一食あたり	2026年5月まで	2026年6月から
一般所得者の場合	510円	550円
住民税非課税世帯の場合	240円	270円
住民税非課税かつ「低所得I」の区分になる70歳以上	110円	130円

1か月の負担でみると、2026年6月からは一般所得の場合はおおよそ4,000円、住民税非課税世帯の場合はおおよそ3,000円が値上がりすることになります。世間的にも様々なものの価格が上昇するなかで、少なくない負担増となりますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

コラム連載（第8回）

こちらは、当院で働く様々な職種の方に、当院にまつわるお話や、メンタルヘルスに関することなど幅広い形で情報提供をさせていただく企画です。第8回は、当院精神保健福祉士の佐藤裕一氏に執筆していただきました。

退院はゴールではなく再スタート ～新任精神保健福祉士として感じていること～

精神保健福祉士 佐藤 裕一

この度、昭和医科大学横浜市北部病院から異動して参りました精神保健福祉士の佐藤裕一です。まさか、異動してすぐコラムを書くこととなるとは思わず、何を書いたらいいものか……。真っ白なパソコンを前に暫く固まっていたのですが、異動もありここ最近感じていることを書いていこうと思います。

精神科の入院病床をもつ医療機関で働いていると「退院」という言葉が特別な重みを持っていることを日々感じます。長い入院生活を経て外の世界に踏み出す方もいれば、短期の入院で生活の立て直しを図る方、入退院を繰り返しながら、徐々に外の世界に自身の居場所を見つけていかれる方……

いずれも皆さんに共通しているのは、退院が「ゴール」ではなく「再スタート」だということなのかなと思います。私たち精神保健福祉士の役割の一つに、退院後の生活が少しでも安心できるように、地域の支援者とつながりを作ることにあります。訪問看護、相談支援、就労支援、ご家族への支援、そして地域の医療機関などなど、その一つ一つが退院後の生活を支える「土台」となればと思っています。

病院の治療が一段落しても、人生は続いて行きます。その道りに寄り添える存在になれるよう精進していきたいと思っておりますので、何卒よろしく申し上げます。

私が毎週参加しているゲームサークルについて紹介します。木曜日の12時30分から13時30分にプログラムを行っています。今現在は10人前後が参加しています。

最近の活動内容は、基本的には「大乱闘スマッシュブラザーズSP」というゲームを主にやっていて、他には「カービィのエアライダー」、「ポケモンシリーズ（チャンピオンズ、ZA、SV、ポケポケ）」、「マリオカートワールド」のいずれかをランダムでやっています。基本的にはSwitchのゲームをやることが多いですが、たまにPS5をやることがあります。PS5では「ストリートファイター6」をやることが多いです。このゲーム以外には「餓狼伝説 city of the wolves」をやっています。

私が参加している理由は、いつもひとりでゲームをやっているのでも、みんなとゲームを通してコミュニケーションを取りながらゲームを楽しみたいからです。みんなと和気あいあいと楽しんで活動しています。私は参加当初、スマブラがうまくプレイできなくて困りましたが、少しずつ上達してプレイできるようになったので嬉しかったです。



《 5月 》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,883(8,500)	5,917(6,583)
◇一日平均患者数	286.5(283.3)	257.3(263.3)
◆診療実日数	31(31)	23(25)

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時

電話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座Instagramが開設されました。

随時情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



【編集後記】

当院は7月1日に昭和医科大学附属として75周年を迎えました。これまで長きにわたり皆さまに支えられ、この節目の年を迎えることができましたことに、心より感謝申し上げます。

7月は梅雨の終わりとともに本格的な夏へと移り変わる季節です。気圧や湿度の変化に伴い、頭痛や倦怠感、不眠、気分の落ち込みなど、さまざまな心身の不調を感じておられる方も少なくないのではないのでしょうか。気候と健康との関係は古代ギリシャ時代から指摘されており、ヒポクラテスもその重要性を記しています。近年では、気圧変化が内耳や自律神経系を介して身体症状や精神症状に影響を及ぼす可能性が報告されており、科学的な解明が進められています。

我々は創設以来のパイオニア精神を大切にしながら、これからも広く社会に開かれた病院であり続けたいと考えております。季節の移ろいを感じるこの時期、どうぞご自身の心身の変化にも目を向け、健やかに過ごしてください。

(広報委員 真田)